



山口としや 通信 第33号

ブログはじめました!

コロナ禍の中、新しい生活様式が提案され、ソーシャルディスタンスをとることが、当たり前となっています。これまでと同じように、市民の皆さんと接することが難しくなっています。そこで、新たな情報発信として、ブログを始めました。週に1回～2回更新しようと思っています。ブログのアドレスは<https://go2senkyo.com/seijika/142641>です。右下のQRコードを讀んでいただくと、スマホでブログをみることができます。多数のアクセス、待っています。

また、白山市議会では、市民と痛みを共有するため、議員歳費を15万円、政務活動費を36万円、合計51万円減額しました。これで十分とは思いませんが、その減額分を福祉施策の充実に使って頂きます。政務活動費が半額になりましたが、これまで同様活動していきます。これからも、ご支援お願いします。



マスク姿での一般質問。これからの常識かな?



2020年6月議会報告

新型コロナウイルス感染防止、支援は大丈夫?

(質問) 今後、一律の現金給付など、市民向けの市独自の支援策は。

→ (市長) 一律に支給する特別定額給付金は、先週末までに95.6%の申請があり、順次払い込みを行っている。また、ひとり親世帯の生活支援するため、児童扶養手当受給世帯に臨時特別給付金4万円の支給のほか、水道料金の減免及び民営簡易水道組合などへの補助の支援を実施している。

現在、一律に現金を給付することは考えていない。今後も、国・県の動向を注視していく。

(質問) 市独自の中小企業等応援給付金は国の持続化給付金を受けられなかった企業などに市として支援する大変良い制度。

県が実施した感染拡大防止協力金は、県が行った休業要請の補償の意味合いがあり、国の給付金とは性質が違う。また、業種に制限があり、その見直しが県議会でも問題となっていた。県の協力金の対象とな

らなかったものの休業要請によって多大な影響を受けた業種、例えばタクシーや代行、法人などに市として支援が行えないか。

→ (市長) 県の感染防止協力金には、白山市も3分の1を負担している。また、国の持続化給付金を補完する制度である市の中小企業等応援給付金はほぼ全ての業種が対象であり、これで補完できると考えている。今後、経済的影響が拡大することになれば、国県の支援策の動向を注視し、市が補完できる部分については速やかに対応したい。

(質問) 5月に成立した6500万円の予算の信用保証料利子補給助成金は200万円の助成にとどまっている。国が無利子の助成を行っているので、使われないのでは。

→ (産業部長) これから先、市の利子補給助成金が使われないことないと考えている。また、中小企業等応援給付金も周知し、しっかり利用していただく。応援給付金の申請状況も考慮しながら、次の施策があれ

ばしっかりと取り組みたい。ご理解を。

(質問) 融資は借金。借金をするぐらいなら倒産を選ぶ事業者もいるのでは。何らかの給付金を。

→ (産業部長) 融資は借金だが、第2波を考えると大切。国や県の制度を利用した支援を行いたい。

(質問) ステイホームで、家庭内でのDVが増えているとの報道があるが、相談体制の

充実を。

→ (市民生活部長) コロナ禍、家庭で過ごす時間が増えることで、DVなどの被害の増加が懸念されているが、本市では今のところそういった相談はない。しかし、内閣府の「DV相談プラス」の周知啓発に取り組んでいる。また、関係機関と連携を強化し、市民に最も身近な相談窓口として誠実に対応していく。



新型コロナウイルス感染拡大防止のための自粛、ステイホームは経済活動に多大な影響を与えています。市は、市民ほど危機感をもっておらず、市として支援が足りないと感じます。

犯罪被害者支援、夜間中学校、横江荘を問う

(質問) 犯罪被害者に対する対応は。

→ (市民生活部長) 2012年に犯罪被害者等への支援を盛り込んだ「安全で安心なまちづくり推進条例」を制定し、これまでDV被害者には警察と連携し、一時避難措置を行っている。2018年には「犯罪被害者等見舞金支給要綱」を策定し、被害者に見舞金を支給している。

(質問) 犯罪被害者等支援基本法に基づいた犯罪被害者等支援条例の制定や基本計画の策定に取り組み、全庁あげての支援体制をつくっては。

→ (市民生活部長) 犯罪被害者等に特化した条例や基本計画についても、県や他市町の動向を注視しながら、その有効性について調査研究していきたい。

(質問) コロナ禍で夜の賑わいがなくなったり、産業構造が変化する。そのために学び直しの場が必要。古くは戦後の混乱期に学校へ行けなかった人や最近では外国に由来する人や不登校などで形式的に学校を卒業した人などが存在する。そのような方の学び直しの場として夜間中学校があるが、石川県にはまだない。丁寧なニーズ調査をし、設置の必要性を県を巻き込み議論すべきでは。

→ (教育長) 夜間中学校は全国では、10都府県に34校設置されている。どのような丁寧なニーズ調査が必要か他市町の事例を情報収集し、今後研究していきたい。設置には国による支援措置の拡充も必要と考

えている。



横江荘家跡、訪問者は少ないです。

(質問) 横江荘遺跡保存事業について、今年度策定予定の整備基本計画の中に、市民を巻き込んだの事業を計画し、整備する公園に人が集まる仕組み作りを。

→ (市長) 横江荘遺跡整備委員会を設置し、基本計画を策定している。委員会には、活用部会を設け、議員提案の市民参加型となっている。先進地の優良事例を参考にしていきたい。加えて、21年夏にオープン予定の仮称「イオンモール白山」と連携した屋内型と屋外型の利点を活かしたイベントや官民連携による緑の空間づくりを考えている。市民の皆さんに愛され、利用していただける空間となるよう計画に盛り込んでいきたい。

(質問) イオンとの連携は聞いているが、イオンの中に市民が活動する場所、集まる場所が作れないか。

→ (観光文化スポーツ部長) イオン関係者と調整中。話し合いの中で、イオンでのイベントや、遺跡公園を利用して回るなども考えている。これまで以上にイオンとの連携は強くしていきたい。

コロナ禍ではありますが、市の施策の停滞は許されません。特に、社会弱者の声が生きる市政になるべきです。これからもしっかりと届けていきます。

環境にやさしい市を目指して

(質問) 住宅用太陽光発電システム整備補助件数が目標の1500件に達するのはいつ。

→(市長) 3月末現在、1438件。8月には1500件に達する。

(質問) 達成した後、補助をやめると聞いているが、SDGs未来都市を掲げる本市です。何らかの補助を続ける必要があるのでは。

→(市長) 太陽光発電システムが普及し、価格が低下してきている。一定の役割を終えたと考えている。しかし、SDGsの目標の一つに「エネルギーをクリーンに」があり、近年蓄電池が注目されている。

国の制度を活用しつつ、蓄電池を核とした普及に対して補助を行うことができないか検討していきたい。

(質問) 目標達成もわかるし、蓄電池を核という流れもわかるが、今年度一杯補助を続けることは考えていないのか。

→(市民生活部長) 現在の補助制度につい

ては、予算内の補助と考えている。今年度は1500件ということで考えている。

(質問) ごみの減量化資源化に役立つ、生ごみ処理機購入の補助の再開と堆肥の利活用システムの構築を。



→(市長) 生ごみ処理機は高額なので、より安価な段ボールコンポストの普及を進めている。

一家に一台、段ボールコンポストを。

また、調査の結果、市内市町の多くが補助を実施しており、ごみの減量化を進めるためにも、来年度から補助を再開することを目標に前向きに準備していきたい。

堆肥の活用については、回収方法や利活用など課題も多く、今後JA等と協議していきたい。

循環型社会を作るため行政の果たす役割は大きいです。特にSDGs未来都市を標榜する本市は、もっと積極的に関わっていくべきです。これからも、いろいろな角度から提案していきます。

コロナ禍の学校運営は大丈夫?

(質問) 教室での3密回避方法は。

→(教育長) 学校での学習活動では、学びの保障のため、3密になることもある。そこで、マスク着用と換気の徹底をしながら授業を行っている。

(質問) 3密回避のためには学校予算の増額が必要では。

→(教育長) 国の第二次補正予算を活用しながら、予算措置していきたい。

(質問) サーモグラフィーカメラを全小中学校に配備したが、級外の少ない小中規模小学校では、確認する人手が足りない。給食指導と並行しての手洗い指導も人手が足

りない。人員配置を。

→(教育長) 本市では、事務補助員を9人、スクールサポートスタッフを4人、大規模校に配置している。この度、国において、スクールサポートスタッフの追加配置に関連する予算が成立したので、小中規模小中学校にも配置していきたい。

(質問) 聴覚障害のある児童生徒は唇の動き、口元をみて言葉を読み取っています。授業担当の教員はマスクを外してしゃべる場面もあると聞いている。報道で、口元を透明なシートにして、口元が見えるマスクを紹介していた。このマスクを購入し、該

当の学校に配布しては。

→（教育長）口元が見えることは、聴覚に障害がある児童生徒の授業や、英語の授業には不可欠。フェイスシールドを配布しているほか、口元が見えるマスクについても、英語の授業で利用している。

（質問）英語の授業で利用しているなら、聴覚障害のある児童生徒の在籍する学校にも配布を。

→（教育長）早速配布していきたい。

（質問）プールの授業を実施すると聞いたが、マスクを外しての授業になるが、感染拡大防止対策は大丈夫か。



マスクをしての授業は、仕方ないところでは。

→（教育長）他自治体では、中止のところもあるようだが、本市では実施しても良いと通知した。条件は、50人以上は入らない。先生は2人以上つくこと、更衣室は密にならないように、見学はマスクをして1メートル間隔をとることとしている。

（質問）授業の遅れを取り戻すため、夏休みを2週間に短縮したり、7限授業や土曜授業なども考えているようだ。過度の児童生徒の負担になったり、詰め込みすぎにならないようにすべきでは。

→（産業部長）感染症対策と子どもたちの健やかな学びの保障の両立に努めている。文部科学省も、年度当初に予定していた内容の指導を本年度中に終えることが困難な場合、次年度以降を見通した教育課程編成にも言及している。市として、詰め込みすぎにならないよう配慮したい。一部7限目をしなければならない学校はあるが、土曜授業をする予定はない。

（質問）特別教室の一部にエアコンのない教室があるが、熱中症対策は。

→（教育長）年間指導計画の中で、指導の順序を変更するなどして、エアコンのない特別教室の使用を避ける工夫をしていく。

（質問）授業の実施が最優先。学校内外の会議や研修、あるいは報告などは、前例にとらわれずに大胆に削減しては。

→（教育長）研修は教職員の指導力向上を図る上で、非常に大切。しかし、本年は各種研修をオンライン研修や資料配付にかえたり、中止にするものもある。報告書も簡略化の対応をとっている。各学校でも会議の縮小をして時数確保に努めている。今後

→（教育長）研修は教職員の指導力向上を図る上で、非常に大切。しかし、本年は各種研修をオンライン研修や資料配付にかえたり、中止にするものもある。報告書も簡略化の対応をとっている。各学校でも会議の縮小をして時数確保に努めている。今後

→（教育長）道徳教育推進事業の指定研究を美川小学校が受けて、その予算が今会議に計上されているが、返上ないし延期を。

→（教育長）文部科学省が事業実施について今検討中であるとの連絡があった。今後は国の方針に沿ってやっていきたい。

（質問）部活動が再開されたが、部活動の大会や発表会は中止となっている。3年生にとっては最後のシーズン。3密を回避しながら、何らかの大会や発表会を設定し、成果の発表の場をつくる必要がある。

→（教育長）夏の大会・発表会は、大切な場であり、次のステージへの切り替えを行う一つの節目。中学校体育連盟においては、代替の大会の7月20日前後の実施に向け準備している。中学校文化連盟も代替の発表会の実施に向け検討している。

（質問）オンライン授業が報道で取り上げられているが、オンラインでは、非認知能力が、目指す学力が身につかないのでは。

→（教育長）臨時休業中、学びの保障のため、オンライン授業の導入が進んだ。本市では、一方向型のオンライン授業を行ってきたが、知識技能は身につけても、本市が大切にしている豊かな感性や生きる力、コミュニケーション能力など、思考力・判断力・表現力を身につけることは難しいと考えている。今後は、オンライン授業も活用していくが、補助的なものと考えている。



感染拡大防止と学びの両立は大変難しいです。細心の注意を学校では払っています。市として支援できることはないか。これからも提案していきます。

※市政へのご意見、ご要望をお寄せください。

TEL：275-0179

e-mail：toshiya@y-toshiya.com

ホームページ：<http://y-toshiya.com/>

FAX：275-0924